

# 農業、食品産業へ応用 メタボローム解析 研究者らがシンポ

農業や食品産業分野へのメタボローム解析技術の活用について、関係する国内の研究者が一堂に集まり可能性や課題を発表する「アクリメタボロームシンポジウム」が29日、鶴岡市の東北公益文科大学大学院ホールで開かれた。

県農業総合研究センター園芸試験場(寒河江市)と庄内地域産業振興センター、慶應義塾大先端生命科学研究所の主催。慶大先端研が開発した世界最先端のメタボローム解析技術の活用状況と、新たな応用の試みについて広く知ってもらおうと企画し、県内外の研究機関や企業、慶應先端研の学生ら約60人が参加した。

シンポジウムでは、北海道農業研究センター研究員の岡崎主毅さんが

「作物栽培におけるメタボローム解析技術の応用」、大阪大大学院工学研究科の福崎英一郎教授(生命先端工学専攻)が「メタボリックプロファインリンクの精密表現型解析への応用」のテーマでそれぞれ基調講演。引き続き、理化学研究所植物科学研究センター研究員で慶大先端研特任講師の及川彰さん、県農業総合研究センター水田農業試験場開発研究専門員の佐野智義さんら4人が、農業と食品分野に関するメタボローム解析技術の活用や応用について話題提供した。

基調講演の後の講演者と参加者との質疑では、食品の官能試験とメタボローム解析技術へのメタボローム解析技術の応用を採ったシンポジウム



ローム解析との相関関係に質問があり、人間の嗜好に対して成分を細密に測定する最新技術がどの程度まで迫っているのかに関心を集めていた。